

令和6年産水稻における高温対策のポイント

令和6年7月16日
農業技術研究センター

熊谷の平均気温は平年と比較して6月は1.5℃高く、7月上旬では4.2℃も高くなりました。梅雨明け後も高温が予報されていることから、出穂期が早まると予想されます。葉色診断に基づく穂肥の適期施用や水管理を徹底し、高温障害を回避しましょう。

1 気象状況

本年、熊谷の平均気温は平年に比較して6月は1.5℃、7月上旬では4.2℃も高くなっており、昨年的高温年よりも高く推移しています。

7月11日気象庁発表の1か月予報では平均気温は70%の確率で高いと見込まれ、梅雨明け以降、気温がかなり高くなると予報しています。



2 高温対策のポイント

(1) 早植栽培 (5月移植) の穂肥施用

当センターの5月21日植「彩のかがやき」は、高温多照により生育は旺盛で、分けつの発生もかなり多いことから、葉色は「4」(群落)を下回っています。また、葉位の進展も平年に比べ0.7枚早く進み、出穂が早まることが予想されます(7月10日現在)。

ほ場をよく観察し、葉色が「4」程度を下回った場合は、必ず穂肥を施用しましょう。

施用時期は、幼穂長1~2mm、「彩のかがやき」では出穂前23~22日頃、「彩のきずな」は出穂前25~23日頃を目安に窒素成分で3kg/10a程度を施用しましょう。

高温下では一発肥料体系においても緩効性肥料の溶出が早まり、穂肥としての効果が不足する可能性があります。葉色が「4」を下回ったら上記に沿った追肥を検討しましょう。

(2) 普通期栽培 (6月移植) の穂肥施用

高温等により葉色が「4」を下回った場合は、必ず穂肥を行いましょう。

施用時期は、幼穂長0.5~1mm、出穂前25日頃に「彩のかがやき」は窒素成分で3kg/10a程度、「彩のきずな」では2kg/10a程度を施用しましょう。

詳しくは、当センターHPの「彩のかがやき」や「彩のきずな」の栽培指針をご覧ください。

[水田高度利用担当 - 埼玉県 \(saitama.lg.jp\)](http://saitama.lg.jp)

例)「彩のかがやき」穂肥施用時期の目安

田植時期	出穂期	穂肥施用
5月20日頃	8月11日頃	7月20日頃
6月10日頃	8月20日頃	7月26日頃
6月20日頃	8月23日頃	7月29日頃

(3) 水管理

高温の影響から分けつの発生が多く過繁茂が予想されます。普通期栽培では、有効茎数を確保したら速やかに小ひびが入る程度に中干を行いましょう。

出穂期以降は、田面近くの「うわ根」が活動の主体となるので、各作型とも根の活性維持のため、出穂後7日以降は間断かん水を行いましょう。一方、用水のかけ流しは、用水不足を招く恐れがあるので行わないようにしましょう。

3 イネカメムシの防除

本年は、イネカメムシの発生が多く、県東部の予察灯において7月3日までの誘殺数が、昨年の9月までの総誘殺数をすでに超えています。更に県東部・東北部のほか、本年は県西部や北部地域でも発生が確認され、被害の拡大が懸念されます。

右記資料を参考に薬剤防除等を行いましょう。[令和6年度注意報第5号 \(saitama.lg.jp\)](#)